

保育かながわ

発行所

横浜市神奈川区沢渡4の2

一般社団法人

神奈川県保育会

発行人

萩 原 敬 三

題字

故 内 山 岩 太 郎 筆

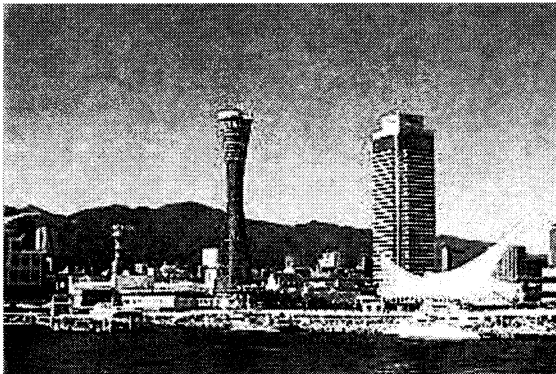
第六十一回全国保育研究大会

神戸大会

平成二十九年十一月十五日
より三日間兵庫県神戸市でお
こなわれました。初日はオー
プニング・アトラクションで
始まりしました。ティンカーベ
ルという名前のミュージック
ベルとトーンチャイムを演奏
するグループで、メンバーの
方々の優しく滑らかに動かす
ベルからは、優しくそして力
強い音が演奏されていました。
奏でられる音のコンビネーシ
ョンにすっかり癒されてしま
いました。ミュージックベル
に出会いそれから一筋に取り
組んできたというリーダーの
方の熱い情熱が演奏の中に溢
れ出ていて感動が会場に広が
りました。

いよいよ開式です。式典が
催され、開催地保育協議会会
長の小林公正氏のあいさつが
ありました。今回の研究大会

の参加者数は西暦と同じ二〇
一七人でした。「こんなことが
本当にあるのでしょうか。
(笑)」「よく食べ・よく飲み・
良く学び・よく笑いましよう。
(笑)」という小林氏の笑顔を
誘うあいさつに、関西の明る



い風土を感じました。その後
に児童憲章の朗読、物故者へ
の黙祷。主催者である全保協

会長などからのあいさつの後、
来賓者からの祝辞がありまし
た。続いて表彰が行われ全国
保育協議会特別感謝・会長表
彰をあわせて全国で二四八名
の方が表彰され神奈川県から
は六名の方々が荣誉ある会長
表彰を受けてその功績がたた
えられました。式典の最後に
大会宣言が読み上げられ参加
者の熱い拍手により採択され
ました。その後、厚労省雇用
均等・児童家庭局保育課より
保育行政の動向と課題につい
てと題しての行政説明と全保
協会長より全保協の取り組み
などの報告がされました。

二日目は、分科会です。第
二分科会「配慮を必要とする
子供や家庭への支援に向けて」
に参加しました。この分科会
では、神奈川県代表の茅ヶ崎
市保育士会内容研究会、島根

県出雲市そして神戸市が発表
しました。

配慮の必要な児童を理解し
ていく過程や特性に応じた支
援の取り組み方法、子ども同
士をつなげる仲間づくりの家
庭、親子関係の支援の方法に
ついてどのグループも丁寧に
発表していました。午後から
はグループワークもあり全国
の仲間と、共に抱える問題を
話し合いました。

三日目の最終日は、記念講演
に「ザ・ニュースペーパー番
外編(社会風刺コント集団)」
が「保育泣き笑い」という題
名のコントで、保育園はブラ
ック企業、保育士は三K職種
と風刺され会場は爆笑に包ま
れました。最後は、次回開催
地である川崎の紹介PVと会
長である奥村尚三氏のあいさ
つで締めくくられました。

受賞者による「保育の思い出」寄稿

認定こども園善隣園

田代 由佳理

この度はこの様な小さな者が全国保育協議会会長表彰という栄えある賞を頂きまして身の引き締まる思いです。

私の保育の思い出は、担任の先生との出会いから始まります。私が年長五歳の時、跳び箱を跳ぶ機会がありました。跳べる自信がなく立ちすくんでいる私に「できるよ。やってごらん」と前に立ってじっと待ち続けてくれた先生の存在が保育士を目指した原点です。

夢が叶い、憧れの先生と同じ公立の保育士になって数年後、年長の担任になりました。散歩先のアスレチック遊具で遊んでいた時、男児が足を滑らせ上から転落しました。「わあ〜」という声で自分自身が凍りつき頭が真っ白になった感覚は今でも覚えています。この状況を何とかしなければ（当時はまだ携帯電話がありませんでした）とけがをした



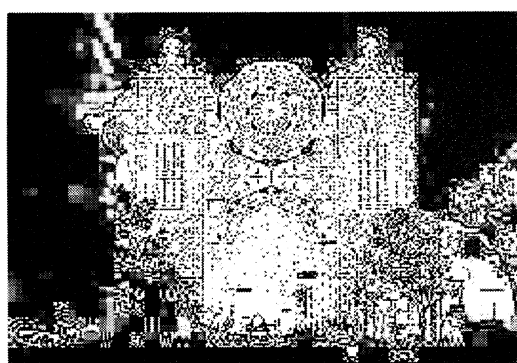
子どもをおぶって子どもたちと保育園へ帰ることにしました。今思えば、もっと適切な判断ができたと思いますが、その時はそれが精一杯でした。痛みをこらえて背中にしがみついていた子どもの手、体の重み、そしてけがした子と先生を守ろうと必死でついてきてくれたその他の子ども達に助けられて無事に保育園へ戻り適切な処置をしてもらうことができました。本当に申し訳ないことをしましたが、この出来事を通して私は子ども達にクラス仲間として助けてもらいました。先生はいつも子どもの前に立つ存在ではなく、横並びで助け合える関係も作れることを子どもから学びました。

公立園から横須賀市の社会福祉法人立の園に移って驚いたことがあります。公立園では「散歩で外に出た時は市民の目を意識しなさい。市民はみんなオンブズマンで私達の保育を見ています」と教育されました。しかし、民間園に来て言われたことは「困ったら、町の人に助けを求めたらいいじゃない」という言葉でした。どちらにも一理ありますが、私には助けをもらうという発想がありませんでした。保育は自分達だけで抱えるものではなく、地域住民と共に地域の子ども達を育てるという考え方を学びました。

また、園内で保育の実践報告をする機会を与えて頂きました。日々の保育の中で興味のある事、疑問に感じた事を少し長いスパンで追いかけて保育をまとめていく作業でし

た。上手に跳ぶことができる子とそうでない子にはどんな違いがあるのだろうか？という疑問から子どもの足の裏に何度も絵の具を塗って足型をとり自分なりにまとめました。

この学びから保育を考えていく面白さを教えて頂きました。振り返ると、私の保育の歩みは子ども達と保護者と園長先生、先輩と同僚、地域住民の方たちによって支えられてきた事に改めて感謝に堪えません。今まで沢山の経験をさせて頂きましたが、経験則だけが保育の正解ではありません。保育制度等や外部環境の変化といった「今」と向き合い、諸



先輩のご指導を受けながら仲間と共に子ども達の幸せを追求していきたいと思えます。

白旗保育園

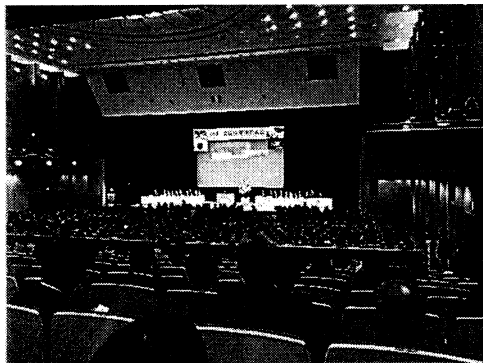
藤代 裕子

私が保育職についた年は、日本がまだ好景気（バブル期）と言われた平成元年でした。三高（高学歴、高収入、背が高い）男性がモテはやされ、一般企業に就職した友人は、高価なブランドを持ち、高層階でのランチを楽しむ、社会人生活を謳歌していました。私はと言いますと、四季折々の自然と、間近に江の島が見える保育園に就職し、OLとなった友人との会話に多少のギャップを感じながらも、心地よい風の中で、子ども達の研ぎ澄まされた感性に刺激を受け、充実した日々を送っていました。

当時、保育園を利用されていた保護者の方は、仕事にやりがい求め、女性が社会で活躍する扉を開こうと、仕事も子育ても活気に満ちた母親像が、今でも印象に残っています。その後どのような時代が変わっていったのかは分か

りませんが、いつしか生活、子育てに不安を持ち、家族関係に悩みを抱える保護者が増えていきました。私は保育士として、保護者の悩みに上手く答える事が出来ないもどかしさを感じながら、その気持ちを受け止めようと、今から思えば、とても背伸びをしていた時期がありました。そして大きな事件、関西を襲った未曾有の災害が、保護者の不安をさらに深め、私は保育士としての重圧、責任の重さを感じることとなりました。

私はこの時期に保育士を辞めてしまった事があります。責任の重さに逃げたかったのか他の仕事に憧れをもったのか、今となつては、はっきりとした理由がわかりませんが、新しい環境の中に身を置いた事で、たくさん事を学ぶ事ができました。そしてその経験がのちの保育、保護者支援の取り組みの中で、とてもプラスになりました。一年程働いておりましたが、元の職場の上司に声をかけて頂き又、同じ保育園に復職する事がで



きました。今でも温かく私を受け入れてくださいました園長をはじめ、先輩、同僚の方々、そして待っていてくれた子ども達には感謝の言葉しかありません。

そして私も母になり、子育てと仕事の両立の大変さを実感し、周りの人の助けを借りながら現在にいたっております。

今回、「全国保育協議会会長表彰」を賜り改めて保育の仕事の素晴らしさ、楽しかった日々を振り返る事が出来ました。

近年核家族化の中で、共働き家庭が増え、地域とのつながりも希薄さを感じます。私たち保育士の役割も多岐にわたりますが、子ども達がより

よい環境経験の中で育っていく力の根幹に携わる仕事として又、国や地域、保育園が、子育て世代のご家族に寄り添い支援していく事で、子ども達の元気な声と笑顔溢れる未来に少しでも貢献できるよう、今後も愛情、情熱、信念を持ち携わっていききたいと思っています。

ひまわり愛児園

三橋 貴文

この度は全国保育協議会会長表彰を受賞させて頂きありがとうございます。ここまで続けられたのは職場の職員や保育関係の仲間のご指導ご理解、そして家族の支えがあったお陰と感謝しております。

私の保育への道に進むきっかけを作ったのはやはり当時園長だった父親の「そろそろ園を手伝わないか」の一言でした。それまで園を手伝う気持ちになかった私は良く考え、子どもは好きだし、私が継がなければ三橋とは何の関係もなくなってしまうという責任感から入職することを決めました。今年で創立六十四年を迎えますが、昔は自宅の隣に

剣道保育も私が引き継ぎ、日本の心を伝えていきます。

十年程現場にて指導・保育を行ったのち、園長に就任致しました。事務員や副園長を経験せずの園長だった為、初めの三年程は園長職の仕事を覚えるのに必死でした。前園長は残っておりましたが、わからないことは聞けば簡単ですが、自分の勉強のために運営費や補助金関係のことは他園の園長や市役所に良く電話を掛け訊いていたことを思い出します。

他団体ではありますが、私は日本保育協会の方で活動して参りました。全国各地を飛び回り、委員会や研修会に参加し、大変勉強になったことは当然ですが、何よりも四十二都道府県に保育の仲間がいることです。これは私にとって宝です。これからも一生涯の仲間として大事にしていきたいと思えます。

ここ数年で保育情勢は大きく変わりました。しかし、子どもを思う気持ちは変わりません。これからも「子どもの最善

の利益を第一に考え邁進していききたいと思います。

草柳保育園

賞眞 えり子

私が保育園に赴任して一年目。初めて担任したのはゼロ・一歳児混合クラスの四人担任でした。おむつ交換、食事対応、睡眠・着脱の介助、遊びの対応、そして個別の記録等々。子どもひとり一人に次から次へと対応し、あつという間の一日でした。初めての事ばかりでドキドキしながらの毎日でしたが、朝「おはよう」と部屋に入り、ニコリ笑顔で集まって来る子ども達を見ると、また元気に一日を始めることができました。そんな時、先輩保育士の方達は行き届かない私の分まで仕事が増えてきつと大変だった事と今になって思います。でも、いつも丁寧じっくり教えて頂いたおかげで、この仕事の楽しさを知り、今まで続けることができたと感じています。

毎日、子ども達と日中の長い時間一緒に過ごしているとすっかり信頼関係ができ、機嫌が悪くても抱っこをするとすぐ



に泣き止み、すっかり母親気分になっていた私でした。でも、「ただいま」と帰ってきたお母さんの姿を見るとパツと離れていってしまう子どもたちにも、当然のことと分かっているのですが、当時若かった私はがっかりしてさみしく思いました。同時にお母さん達も我が子のことをとっても大切に思っているという母親の偉大さを痛感しました。そんな大事な子ども達を預かっていることの重大さを知り、保育士の役割や、やりがいを感じることができました。

そして私自身も母になり、我が子の大切さを実感しました。子育てをする中では、育児休業

中、家庭で子育てする母親を経験しました。保育園に通わせている時は、働きながら子育てする母親の立場になったことで、保育園の必要性や、地域の子育て支援の重要性・役割がわかり保育に向かう心構えや姿勢が大きく変わりました。社会の変化や保育ニーズの多様化などに目を向け考えるようになってのです。子どもを取り巻く環境は変化しても、家庭も保育園も健やかな子どもの成長を願う気持ちに変わりはなく、皆が協力して子育てに取り組んでいかなければと思い、日々のコミュニケーションを大切にしています。毎年四月に新入児を迎え、三月には卒園し巣立っていく子ども達。それを繰り返しているうちに、いつの間にか保護者の方より年上になり、また先輩保育士として後輩を育てる立場になってしまいました。今回、栄誉ある賞を頂き、職場の皆さんや家族の理解・協力があつたからこそ受賞できたことに感謝しています。そして今後とも保育事業がより一層促進されるように期待し、これか



らも保育に携わっていきたいと思います。

栗の実保育園

江成 玲子

この度は、「全国保育協議会会長表彰」を頂き光栄に存じております。

私が保育の道に携わる契機となつたのは、九年前に他界した母でした。

母は、私が小学生の頃から市内の公立保育園に勤務していました。家事・子育てを行う中での仕事というのは、幼い私にもその大変さが伝わってきました。

母は仕事の弱音を吐くどころか毎日のように帰宅後、私に保育園での出来事をとても楽

しそうに話してくれました。しかし、年々腰痛がひどくなつていく母の姿を見て、口癖のように「保育って楽しいよ」という言葉にいつしか疑問を抱くようになりました。

進路を決める年齢になった私は、もちろん、保育士という選択肢はなく、その当時あまり知られていなかった、ソーシャルワーカーやケースワーカーという専門職を目指し大学に進学しました。

ところが、大学三年生の時、私にとって人生の転機が突然訪れました。

母が長年勤務していた公立保育園を退職し、自身で保育園を開園することを決めたのです。

同時に私に「大学を卒業したら保育園で一緒に働いて欲しい。」と言ってきました。

私が目指している職業をあきらめ、保育園で働いて欲しいという母の願いに戸惑いを感じましたが、母から私に頼みごとをするのは初めてだったということもあり、どうしたらよいか迷いました。

そんな私の様子を見て母は、

「あなたの学んできたことは、保育の現場できっと役に立つ日がくるはずだから」と言いました。

その一言で私は保育士になる決心をしました。

私は、その直後から開園に間に合うようにと、独学で必死に保育の知識を学び資格を取得しました。

大学卒業後、保育士としての一步を踏み出しました。

独学の私が保育専門の学校を卒業した周囲の保育士に劣ることがなく仕事ができただけは、幼い頃から保育士の母をいつも見てきたおかげで自信をもって楽しく保育ができたからではないかと思っています。

その後、私に、結婚・出産、そして子育てとの両立と様々な環境の変化がありました。同時に保育への思いや考え方にも変化が生じているのがわかりました。

また、年齢を重ねるにつれ、日々の保育にゆとりが生まれているのも実感し、自分が目指す保育が見えるようになるとともに、「継続は力なり」とい

う言葉に確信も持てるようになりましました。

私は、十年前に母の跡を継ぎ園長という職に就きました。

保育が多様化する中、育児相談や子育て支援というニーズに答えることが園長としての重要な職務の一つとなっている現在、私にとって学生時代学んだ知識が活かせる絶好の機会となっており、昔、母が私に話していたことがまさに現実となったことに私自身感動しています。

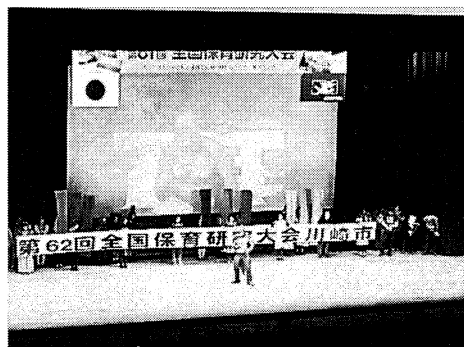
最近では、保育士離れ、保育士不足という深刻な事態となっておりですが、私は、学生時代培ったスキルを活かし、まずは周囲の保育士に「保育士はやりがいのある素晴らしい職業だ」ということを伝えていきたいと考えております。

そして、私自身、これからも、「保育に携わる事が天職です。」と胸を張ってお話できるような努めてまいりたいと思います。

中津保育園

岡本 多鶴子

この度は「全国保育協議会会長表彰」を受賞させて頂きあり



がとうございました。

保育士になり三十五年という歳月が流れました。三十五年を振り返れば短く感じますが三十五年前の私には今の自分を想像することはできず途方も長く感じていたことでしよう。保育士という職業に期待と希望、そしてたくさんの不安をかかえ悩み、苦しみ、何度も辞めようと思ったことか。でもそのたびに先輩や仲間たちに励まされ子どもたちや保護者の皆様にたくさんの元気を頂きました。とりわけ家族の協力がなければここまで来ることにはできなかったと思います。素敵な出会いと私を応援してくれたたくさんの人に支えられ今

があると感じています。

人との出会いは時に思いがけないサプライズをしてくれることがあります。それは今から五年前、職員の結婚式に出席した時のこと。「先生ですよね」と笑顔で声をかけてきた男性がいました。その男性は私が保育士になって一年目に担当した子で、ぱっと見ただけでは気付かないほど立派な青年になっていた。その時「おーい先生だぞ」とその青年が声をかけた先には四人の青年たちが驚いた様子でこちらを見つめ、そして「おおく先生だ」と懐かしそうに笑う姿がありました。その瞬間、三十年前にタイムスリップしかのようにあの時の光景が次から次へと浮かんできて懐かしさと嬉しさとで結婚式どころではありませんでした。幼い頃、お父さんを亡くし「ぼく、お父さん死んじゃったからおかあさんのお手伝いするんだ」と私に話してくれた子。小学校の時に大病を患い闘病生活を送った子。「大きくなったら先生と結婚するんだ」と言っていた子。それぞれがお父

さんになったり結婚と離婚を経験したり、まだ独身を謳歌していたりと卒園してから三十年、それぞれの人生があつたようです。うれしいこと辛いこと私の知らないところでたくさんのことを経験したことでしょう。泥だんご作りや探検ごっこ。真つ黒になつて遊びまわっていたあの頃を懐かしむと共に子どもたちとの再会と成長がどんなにうれしかったことか。この偶然の出来事に悩みながらも保育士を続けてきてよかったと思えたことがこれからの保育士人生の大きな力となりました。そしてこの素敵なプレゼントは頑張ってきた私への「褒美だ」と思い、また「褒美がもらえるよう頑張っていこう」と思っています。なによりも再会した子どもたち、いや青年たちのこれからの将来に幸あれと祈るばかりです。



この機関紙は共同募金配分金により発行しております。

第二回 保育園利用者相談室研修会

平成三十年二月五日(月) J
Aさがみ茅ヶ崎支店5階の大
会議室において、本年度第2回
保育園利用者相談室の研修会
が開催されました。本研修会
は、本年度から始まった保育士等
キャリアアップ研修のマネー
ジメントの一講座として行わ
れました。そのため県内から例
年の倍以上の百八十名近い保
育園職員の参加がありました。

研修会は、参加者をグループ
に分け、それぞれ用意された八
つの事例からグループごとに
指定された事例と選択事例に
ついて、対応策の検討を行いま
した。八つの事例については、
次の通りです。

事例①プール遊びの際に、日
焼けをさせたくない三歳児の
保護者から、ラッシュガードを
着用させて欲しいとの要望が
あったが、医師の診断がある場
合に限り、ラッシュガードの着
用を認めているため、プール遊
び時間は、別の活動を保護者に
提案した。事例②子どもの手の

甲にボールペンで絵を描いた。
降園時、母親がその手を見て、
子どもに「なかなか落ちないの
よね。ごしごしするから、泣い
てもしらないからね」と強い口
調で言った。担任は、母親が子
どもの手の甲に絵を描くこと
を嫌がっていることは知らな
かった。事例③保育園の前の道
路が狭いため、園側で独自に出
入りの方向を決めていたが、ル
ールを守らない保護者がいて、
注意して欲しいとの苦情が出
た。ルールを無視した保護者に、
ルールを守るように話したと
ころ、逆ギレされた。園では保
護者懇談会で話し、駐車場にも
説明書の貼り紙をするなどし
ていたため、全保護者に理解さ
れていると思っていた。事例④
一歳児の時に卵と乳製品のア
レルギーがあったが、三歳にな
った際に、新たに提出されたア
レルギー管理指導表では、卵の
みと記されていた。そのため、
保護者に栄養面のことを考え、
解除申請を依頼していたが、提

出して頂けなかった。ある時、
園の行事で、保護者が乳製品を
与えているのを見て、保護者の
了解なしに、給食で乳製品を与
えたところ、口の周りに湿疹が
でき、内緒で与えたことが保護
者に知られた。事例⑤ 離婚し
た父から母共に虐待を受けた
ことにより、大人の男性に対し
て恐怖心を持つようになった。
園側はそれを知らず、男性保育
士を担任にした。しかし、男性
保育士が大きな声を出したり、
友だちを叱ったりするだけで
怯えてしまい、登園出来なくな
った。保育園をやめたら仕事が
出来なくなるため、担任を替え
て欲しいと園にお願いしたが、
職員不足で対応が出来ないと、
園から告げられた。事例⑥四歳
児S男は、体が大きく乱暴など
ころがある。A男と遊んでいた
際に、玩具の取り合いになり、
S男はA男を押した。その時に、
防ごうとしたA男の爪が、S男
の顔に当たった。降園時に保護
者に説明し謝罪したが、帰宅後、
S男はA男に何もしないのに
やられたと親に話した。翌日、
S男の保護者から、保育士が嘘

をついたとの苦情が入る。事例
⑦園庭で年長児が遊んでいた
ところ、隣地の住民から、「園児
の声がうるさい」等の苦情電話
が入る。園長が、住民に説明す
るが納得しない。住民は、保育
園の存在を知らずに、引越
してきた。事例⑧ 七五三のた
め、髪を伸ばしていた年長児の
女の子からアタマジラミが見
つかった。担任は流行を恐れ、
保護者に髪を切るように言い、
保護者が髪を切ったところ、女
の子はショックでしばらく保
育園を欠席した。数日後、渋々
と登園してきたが、髪を切るよ
うに言った担任からは、女の子
保護者に対して一言も話はな
く、また、ケアもなかった。そ
のため、保護者は担任に対して
不信感を抱き、それが周りの保
護者にも伝わり、園長に子ども
の気持ちの理解できないのは、
保育士として失格ではないか
と言ってきた。

以上、八つの事例を各グルー
プ一つ指定し、また、それ以外
に自由に事例を選択して二つ
の事例について、検討して頂い
た。選択事例で最も多かったの
は、事例⑥で十グループが選択
した。事例⑦を選択したグルー
プはなかった。事例検討後、指
定した事例について、二グルー
プずつ報告して頂きました。総
ての報告の後、利用者相談室の
第三者委員の先生方からご講
評を頂きました。

今回、選択事例で最も多かつ
たのは怪我の際の対応でした。
これは保育園で日常的にある
ことで、多くの園が、内容は多
少違っても、時として苦慮して
いることが伺えます。逆に事例
⑦の子どもの声については、こ
こ数年マスコミ等で騒がれ、裁
判にもなっている事例のため、
選択するグループがなかった
のは意外でした。

今回、第三者委員の先生方のご
講評並びに各グループの報告
を聞いて感じたことは、保護者
と真摯に向き合う大切さ、そし
て、初期対応の重要性、それが
早期解決に繋がっていくと思
いました。今回参加された皆様
方は、様々な対応策について学
んだと思います。今後の保育を
行う上で、是非、役立てて頂け
れば幸いです。

安全と子どもの見守り研修会

平成二十九年十月二十四日
(火) 横浜ホテルプラムにて、神奈川県保育会主催、安全と子どもの見守り研修会が開催されました。

今回はジャーナリスト、東京都大学客員教授で、一般社団法人 子ども安全計画研究所代表理事の猪熊弘子氏に「子どもの(へのち)を守る保育のために」良い保育実践と「組織力」が子どもの発達と命を守る」というテーマで講義していただきました。

初めは、講師著書『死を招い



た保育』より、保育園での重大事故について学びました。・公立でも私立でも、「保育園」でも「幼稚園」でも、介護施設でも起こりうる事故である。・職員同士、保護者同士の関係性が最悪であった。・そんな大人を見ている子どもたちの関係性も育っていないかった。・子どもたちは「大人」を信用していなかった。 結論「本件事故は、決して不慮の事故ではなく、日常の保育に多くの問題があり、その問題を放置した故に起きた事故である。」

次に、「学校事故・保育事故」についての基本的な考え方について

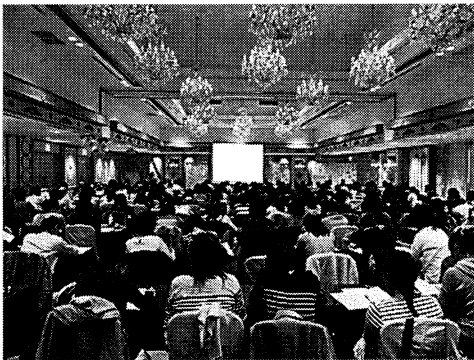
(一) 重大事故で失われる「命」と「信頼」・一度事故を起こすと、失われた園への信頼は、なかなか復活しない・大切な子どもたちを守ることに先生たちの人生と園を守ること。

(二) 「事故は起こるもの」ではなく「起こさないようにする

もの」↓瞬時の判断&先の見通しを立てることが必要である。

(三) 子どもが重篤な状態になるまでわずかに「四分」しかない。・「四分」になった時の動き方を想定した訓練も必要だが、「あと四分」という状況にならないようにすることの方がずっと大切。「事故が起きたらどうするか」(救命)より、「事故を起こさない」ための取り組み(予防)を。・死亡事故の典型的なパターンを知ること、重篤な事故を避けることができる。

(四) 園内で同じような事故が繰り返されているのでヒヤリハットでパターンを理解する。・ヒヤリハットを出すこと



は悪いことではなく、たくさん出した方がよい。

・同じ子どもが、同じ場所で、繰り返し事故を起こしている。・ヒヤリハットで「子どもも理解」と保育の振り返り。

「保育施設での死亡事故の現状(平成二十九年五月内閣府発表データより)保育施設で最も危険な場所と年齢は次のとおりで①睡眠中・ゼロ、一歳。②食事中・一歳以上。③水遊び中・二歳以上。

最も気をつけたいのは、「くうねるみずあそび」Ⅱ寝ているとき、ご飯を食べているとき、水遊びをしているときが、保育の中でいちばん危険な時間と覚える。

その後、安全な保育実施についての具体的な方法を学びました。

〈必ず参照したいガイドライン・指針・要領〉として、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」

【事故防止のための取組み】施設・事業者向け(平成二十八年三月)「保育所におけるア

レルギー対応ガイドライン(平成二十三年三月)「

保育所における感染症対策ガイドライン(平成二十四年十一月)改訂版」

また、保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領第三章でも「睡眠中・食事中・水あそび中」という具体的な危険について記載されており、アレルギー対応についても記載されている等ご紹介いただきましたが、「組織」が事故を引き起こすので職員が自ら考え、自ら動くことなど、良い保育の実践と安全の両立のために考えたいことなどをたくさん学びました。



最後に、子どもの命を守るために必要な 8 つのチェック事項

① 保育者、子ども、保護者が互いにより関係を作れているか(お互いに笑顔で向かい合える関係に)

② 保育者が子どもの個性をしつかり、しかもポジティブに把握しているか(子どもをポジティブに把握することです)子どもの関係、保育が変わる。ラーニングストーリーの実践)

③ 保育者が、子どもが遊びこめるような環境を設定しているか(子どもの目がキラキラ輝く保育を「設定」)

④ 立場に関わらず保育者同士の連携は十分にできているか(正規、非正規、パート、経験年数を超え、お互いへの感謝を言葉で表現しよう)

⑤ 職員会議や研修を十分にを行い、園内での問題の共有化がはかれているか(全員で園内の危険な場所について話し合い、危険を回避する方法を考える)

⑥ 保育者が子どもの動静をしつかり把握できているか(子どもの顔と名前を一致させる)

⑦ しつかりした保育計画ができていないか(計画を変えた時に事故は起きている)

⑧ 普段から緊急時の対応は十分にできるようになっているか(責任者不在のときの指示系統など)

子どもの命を守るために大切な考え方、やっておくべきことを学ばせていただきました。

第四十回 保育の日前夜祭

平成二十九年十二月一日、ホテルプラムにおいて、第四十回「保育の日前夜祭」が開催されました。

当日は長年にわたり子ども達の育成に多大の貢献をなされ、本年度の栄えを受けられた受賞者の皆様をお招きし、県行政、保育関係者が一堂に会してお祝いをしました。

伊澤副理事長の「開会のことば」に続き、荻原理事長より受賞者にお祝いのごことばが述べられました。保育会ではすっかりおなじみになった、マスコッ

トキヤラクター「かなわん」もお祝いに駆けつけ、表彰者の方々には荻原理事長より花束が贈呈されました。

・ 神奈川県保育賞

厚木市 岡田保育園 相原千恵子様 伊勢原市 比々多保育園 飯塚 裕子様

小田原市 富水保育園 芝玲子様 秦野市 なでしこ第二保育園 多田 佐智子様

・ 叙勲

鎌倉市 岩瀬保育園 富田英雄様 三浦市 上宮田子羊保育園 生野 多恵子様

小田原市 元報徳保育園 榮研三様 小田原市 元小田原乳児園 吉田 えみ子様

・ 厚生労働大臣表彰

海老名市 柏ヶ谷保育園 貝塚 容子様 三浦市 上宮田子羊保育園 工藤 美保様

横須賀市 長井婦人会保育園 町田 礼子様

以上の皆様方、受賞おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

受賞者の方々からは職場や家族の皆さんに感謝の言葉や受賞の喜び溢れるご挨拶を頂きました。

ご臨席いただいた、保育関係者の方々からも心温まるお祝いや励ましの言葉を多数いただきました。式典後に行われたアトラクションでは、聖ヶ丘教育福祉専門学校副校長今村雅彦氏(バリトン)と、聖徳大学音楽学部講師斉藤京子氏(ソプラノ)の息の合ったコンサートが行われ、荒城の月やマイウェイなどの他、アンコールは参加者全員でふるさとを合唱し、心に残るコンサートとなりました。

懇親会は富田相談役のご発声で和やかに始まり、温かい雰囲気の中参加者の親交を深めながら閉会となりました。



事務局長澁谷さんの紹介

私は、保育関係の仕事は、出戻りになります。昭和五十四年児童課、平成七年児童福祉課、平成十九年中里学園など管理・監査で十五年になり、県歴の約三分の一を経験しましたが、保育現場における実働の仕事は初めてと言っても良いものでした。四月は表彰委員会、会計監査、理事会、企画運営委員会、そして保育事業大会など慌ただしく過ぎてしまい、精神的にも余裕がなく、皆さんに申し訳なく思っております。

好きな言葉は、「やってみせ、言っけかせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ。」ですが、監査の先輩が、「これは有名な海軍提督の言葉だけれど、保育の原点だからね。」と言っていた言葉ですが、それから、私の座右の銘となっています。今回、仕事の再スタートとなりますので、明るく余裕を持って仕事することを、改めてお誓いして挨拶とさせていただきます。